

産地戦略

実施主体 岩手県
 都道府県 岩手県
 対象地域 岩手県内の銀河のしずく栽培適地（主に県中平坦地）
 対象品目 水稲

実施期間 令和4～6年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

岩手県では、水稲において、カメムシ類による斑点米の発生を防止するため、広く化学農薬の散布が行われており、特に割れが多い品種では、2回の農薬散布が実施されている。

カメムシ類による斑点米の発生は、割れが多いほど、発生しやすいとされているが、近年、本県で育成し、導入が進んでいるオリジナル品種である「銀河のしずく」は、割れ割れが発生しにくい品種特性をもっている。

そこで、銀河のしずくの普及と併せて、化学合成農薬の使用回数の削減と省力化が図られる防除体系を広く普及していく。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植			出穂		収穫						
技術名		草刈① 本田除草剤散布		草刈②		農薬散布 2回							斑点米カメムシ類対策 (あきたこまち)

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植			出穂		収穫						
技術名		草刈① 本田除草剤散布		草刈②		農薬散布 1回							斑点米カメムシ類対策 (銀河のしずく)

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	43,100 ▶		主食用水稲の作付面積
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	10 ▶	70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	10 ▶	70	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	10 ▶	70	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	あきたこまちを中心に作付けし、斑点米カメムシの防除（化学農薬の散布）は2回実施。	作付品種を銀河のしずくに変更するとともに、本田内雑草の多発が無ければ、農薬散布回数は1回とする。	化学農薬の使用回数の削減 農薬散布にかかる労力の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	2	▶ 1	出穂後の斑点米カメムシ類の防除に使用する化学農薬の使用回数

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのか分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県オリジナル品種である「銀河のしずく」は、各地域に栽培研究会があり、栽培にかかる研修会が開催されているので、作成した栽培マニュアルを広く紹介することで、技術の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	岩手県	農業改良普及センター	岩手県農業研究センター	JA・JA全農いわて
役割	全体調整・とりまとめ	技術指導	技術的な助言	技術指導・研修会等の開催